

第6次高浜市総合計画 中期基本計画

施策課題カルテ

目標

(3)人と学びの輪を広げ、まちのチカラを育みます

〔とりまとめG〕 こども未来部 文化スポーツグループ

I. 目標と目標の達成状況

| 1. 目指す姿と目安となる指標 | | | | | | |
|---|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 目標 | (3)人と学びの輪を広げ、まちのチカラを育みます | | | | | |
| 目標達成に向けての考え方 | 地域の中で、「教わりたい人」と「教える人」（知恵・知識・特技などを持った人）とがつながるなど、人・学びの接点を豊かにし、「まなび」を全世代へ広げ、「人づくり」から「まちづくり」へと動きをつなげていきます。 | | | | | |
| 目標が達成された姿 | ① 感動との出会いにより、子どもだけでなく、大人もともに成長し、次の世代へ夢とロマンを語り継いでいます。 ② 個人が学んだ成果を、まちづくりに積極的に活かしています。 ③ 「人づくり」から「まちづくり」への動きにつながっていくことで、高浜市に愛着や誇りを持つ市民が増えています。 ④ スポーツ・レクリエーションを通じて市民が交流し、市民の連帯感が向上しています。 | | | | | |
| 指標の状況 | みんなで目指すまちづくり指標 | 現状値 (H25) | 実績値 (H26) | 実績値 (H27) | 実績値 (H28) | 目標値 (H29) |
| | 1) 高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合 | 72.0% | 70.2% | 69.9% | | 76% |
| | 2) 将来の夢を持っている子どもの割合 | 81.1% | 78.0% | 76.9% | | 85% |
| 2. 市民意識調査結果 | | | | | | |
| 設問 | 現状値 (H25) | 実績値 (H26) | 実績値 (H27) | 実績値 (H28) | 実績値 (H29) | |
| 学び（生涯学習やスポーツなど）を通して、人と人につながり、まちづくりを担う人が育っているまちだと思う | 58.9% | 58.2% | 56.1% | | | |
| 3. 「みんなで目指すまちづくり指標」「市民意識調査」結果に対する現状分析（要因・課題等） | | | | | | |
| <p>◇H27「市民意識調査」結果は、全体では56.1%で、策定時比2.8ポイントの減となっている。「市民意識調査報告書」によると、男性（51.8%）に比べて女性（58.2%）の方が意識が高い結果となっている。また年代別で見ると、全体と比べて40代（66.1%）と70代以上（65.8%）では約10ポイント高くなっている一方、50代（44.9%）では約10ポイント低くなっている。</p> <p>◇指標1）「高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合」は、全体では69.9%で、策定時比2.1ポイントの減となっている。「報告書」によると、70代以上（84.9%）では全体と比べて15ポイント高くなっている一方、30代（54.8%）では全体と比べて約15ポイント低くなっている。例年30～40代は全体より低い傾向にあり、仕事が多忙でまちのことを省みる余裕がない、居住年数の長短の影響などがあると思われる。しかし、高取小学校区でおやじの会が設立されるなど、子どもの成長応援に関わる若い世代の新たな動きも見られている。人とつながりや、学習・スポーツ等の活動を通して高浜市の良さを発見できるよう、また、様々な角度から高浜市の良さが伝わるような工夫が大切である。</p> <p>◇「市民意識調査」及び指標1）の実績値低下の要因の一つとして、生涯学習施設を中心に、公共施設の複合化・集約化の動きが具体的になっており、学習・文化・スポーツ活動に力を入れていないという誤解を与えていることが考えられる。将来を見据えて取り組んでいることを丁寧に伝え、施設利用者等の想いに寄り添いながら複合化・集約化の検討を進めていくことが重要である。</p> <p>◇指標2）「将来の夢を持っている子どもの割合」は、全体では76.9%で、策定時比4.2ポイントの減となっている。「報告書」によると、男子（74.4%）の方が女子（79.8%）に比べて数値が低い傾向にある。また、学年が上がるにつれて数値が減少しており、特に中1から中2に進級後の減少幅が19ポイントと大きくなっている（昨年の中1：76.7%→今年の中2：57.7%）。1年間の中学生生活を経て自分</p> | | | | | | |

の適性や社会の現実を知るようになり、これまで抱いていた夢との不一致を感じる子どもが増えていることが考えられる。将来の夢を持つことは、目標に向かって自ら学び、努力・挑戦していくという意欲を高め、成長に資するものである。生涯学習分野だけでなく、学校教育分野とも関連してくるが、各種学習・文化・スポーツ活動などを通して、まなびのエネルギーとなる好奇心や感動、楽しい成功体験が得られるようにしていくことが大切である。

4. 「目標」と「みんなで目指すまちづくり指標」の適切性

指標1) 高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合

| | |
|----------------|--|
| <p>設定根拠</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・「タカハマ物語」製作の思いを受け継ぐ活動を続け、多くの市民の方たちにも参加いただきながら、人とのふれあいや高浜市の魅力の発見などを通して、愛着や誇りを高める。 ・「高浜（まち）の学校」を実践することで、人と人とのネットワークを少しずつ広げていくことで、まちへの愛着感を高める。 ・中期計画においては、現状値から毎年 1.0 ポイントずつ上昇させることを目指し、目標値を76.0%とする。 |
| <p>指標の見直し</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・まちの自慢や魅力を知り、まちへの愛着・誇りが高まることは「住んでいるまちをよりよくしたい」という想いにつながっていくもので、市民の主体的なまなびやまちづくりの原動力となるものである。指標としては適切であり、後期基本計画においても、引き続き採用していきたい。 |
| <p>目標値の適切性</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・前期基本計画の取組みと指標の実績値の推移を踏まえて、中期基本計画の目標値を設定した。目標値は適切であったと考えるが、現状では目標値との乖離が約6%あり、中期基本計画中の達成は困難と見込まれる。 ・今後、市誌編さん事業やタカハマまるごと宝箱事業など、まちへの愛着・誇りを高める取組みを強化していく。後期基本計画における目標値は、後期基本計画期間中の取組みの方向性を踏まえた上で検討したい。 |

指標2) 将来の夢を持っている子どもの割合

| | |
|----------------|---|
| <p>設定根拠</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・「タカハマ物語」製作に込められた思いを具体的な活動として継続し、子どもたちの自主性を引き出す。 ・たかはま夢・未来塾の活動の検証・改善を続け、子どもたちの好奇心やチャレンジ精神をかきたてる。 ・前期計画において、3年間実績で3.3ポイント上昇し、1年あたり1.1ポイント上昇したことになる。中期計画においては、前期計画の1年あたりの上昇ポイントを目標とし、毎年1.0ポイント上昇を目指す。 |
| <p>指標の見直し</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・「将来の夢を持っている子どもの割合」を高めていくことは、目標に向かって自ら学び、努力・挑戦していく子どもを増やし、子どもたちの成長につなげていくことを目指すものである。本市が目指す生涯学習の姿と一致するものであり、指標としては適切である。 ・ただし、学年が上がるにつれて実績値が低下していることを踏まえると、「夢」という表現に戸惑いを感じている可能性も考えられる。「将来の夢・希望・目標を持っている子どもの割合」とした方が、より適切であると思われるため、後期基本計画では見直しを検討したい。 |
| <p>目標値の適切性</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・前期基本計画の取組みと指標の実績値の推移を踏まえて、中期基本計画の目標値を設定した。目標値は適切であったと考えるが、現状では目標値との乖離が約8%あり、目標値の達成は困難と見込まれる。 ・後期基本計画における目標値は、後期基本計画期間中の取組みの方向性を踏まえた上で検討したい。 |

特記事項

- ◇現行の指標に加えて、新たな指標を設定すべきかどうかを検討する。
 (例) 学んだ成果を地域や社会での活動に活かしている人の割合 (H26 文科省調査 24.1%)
 学んだ成果を仕事や就職に活かしている人の割合 (H26 文科省調査 32.6%)

Ⅱ. 目標達成のための取り組み

1. 「こんなことに取り組みます！」を構成するアクションプラン一覧

| こんなことに取り組みます！ | アクションプラン事業名 | |
|--|-------------|--|
| <p>(1) 地域の人たちがさまざまな先生役となり、地域の人たち（特に、子ども）の成長に関わる機会を増やします。</p> | H26 | 【No.14】 学びによるつながり創出事業 |
| | H27 | 【No.14】 タカハマ！まるごと宝箱事業 |
| | H28 | 【No.14】 タカハマ！まるごと宝箱事業 |
| | H29 | 【No.13】 タカハマ！まるごと宝箱事業 【No.14】 市誌編さん事業 |
| <p>(2) 地域ぐるみで未来に羽ばたく人材を育て、まちづくりの活力を高めます。</p> | H26 | 【No.15】 未来にはばたく人材育成事業 |
| | H27 | 【No.15】 こども・若者成長応援事業 |
| | H28 | 【No.14】 タカハマ！まるごと宝箱事業 |
| | H29 | 【No.13】 タカハマ！まるごと宝箱事業 【No.14】 市誌編さん事業 |
| <p>(3) 地域の良さ（歴史、文化、伝統など）を学び、地域の魅力の掘り起こし・情報発信を進めます。</p> | H26 | 【No.14】 学びによるつながり創出事業 |
| | H27 | 【No.14】 タカハマ！まるごと宝箱事業 |
| | H28 | 【No.14】 タカハマ！まるごと宝箱事業 【No.15】 市誌編さん事業 |
| | H29 | 【No.13】 タカハマ！まるごと宝箱事業 【No.14】 市誌編さん事業 |
| <p>(4) 誰もが楽しめるスポーツ・レクリエーションの機会をつくり、市民交流の場を充実します。</p> | H26 | 【No.16】 高浜緑地グランド整備事業 【No.17】 生涯スポーツ推進事業 |
| | H27 | 【No.16】 高浜緑地グランド整備事業 【No.17】 生涯スポーツ推進事業 |
| | H28 | 【No.16】（仮称）高浜緑地整備事業 【No.17】 生涯スポーツ推進事業 |
| | H29 | 【No.15】 高浜芳川緑地整備事業 【No.16】 生涯スポーツ推進事業 |

| 2. 「こんなことに取り組みます！」の実施内容 | | | |
|-------------------------|--|----------|----------------------|
| こんなことに取り組みます！ | (1)地域の人たちがさまざまな先生役となり、地域の人たち(特に、子ども)の成長に関わる機会を増やします。 | | |
| アクションプラン事業名 | H26 学びによるつながり創出事業 H27~29 タカハマ!まるごと宝箱事業 H29 市誌編さん事業 | 担当部・グループ | こども未来部 文化スポーツグループ |
| 実施内容 | 何を・どのように・どうした(どうする) ※箇条書きで記載する | | いつ(年月) |
| 平成26年度 | ①「タカハマ!まるごと宝箱」を立ち上げた。(月1回開催) (例) みんなで鬼みちをあるこう! / 高浜港駅を語ろう!! / 高浜市のお正月料理 / 1年間の振り返りと高浜の魅力をみんなで語ろう! | | H26.7~ |
| | ②愛知教育大学との連携により、公開講座「地域の歴史・文化について民俗学してみよう」を開催した。 | | H26.10 |
| | ③図書館と共同して高浜ふるさと講座「高浜市における土管作りのはじまり」「写真で見る衣浦大橋周辺の今昔」を開催した。 | | H26.11 H27.2 |
| 平成27年度 | ①テーマごとに、調査した市民の方を交えて「タカハマ!まるごと宝箱」学び合い・語り合いの会を月1回のペースで開催し、資料収集や魅力・自慢の発信、それらに関わる人材の掘り起こしを行った。 | | H27.4~ H28.3 |
| | ②名古屋市立大学と連携して三州瓦にまつわる聞き取り調査を行い、聞き書き冊子「たかはまとかわら」を編集・発行、冊子の「おひろめ会」を開催した。 | | H27.6~ H28.3 |
| 平成28年度 | ①テーマごとに調査した市民の方を交えて「学び合い・語り合いの会」をおよそ月1回のペースで開催した。 | | H28.4~ H29.2 |
| | ②今後取り上げたいテーマ、記録に残したいテーマについて、アンケートを行った。 | | H28.8 |
| | ③第2回健康自生地フェスタにて、パネル展示により事業内容を紹介した。 | | H28.8 |
| | ④「タカハマ!まるごと宝箱」小冊子を、編集・発行した。 | | H29.3 |
| 平成29年度 (予定) | ①「学び合い・語り合いの会」を定期的で開催する。 | | 随時 |
| | ②発表テーマ・発表者の掘り起こしを行い、市誌編さんへの協力につなげる。 | | 随時 |
| | ③子ども・若者(例:きずな実行委員会、名古屋市立大学)と連携し、地域の魅力・自慢の掘り起こしや取材・編集、動画による発信などを行う。 | | H29.4~ H30.3 |
| | ④市誌編さんとのタイアップ行事を企画・実施する。 | | H30.3 |
| | ⑤「タカハマ!まるごと宝箱」小冊子を、市民とともに編集・発行する。 | | H30.3 |

| | |
|---------------------------------|--|
| <p>「目標が達成された姿」の実現に向けての成果・課題</p> | <p>【成果】 ○小さな取組みを定期的・持続的に行うことにより、市民の「知りたい」「調べてみよう」といった意欲を喚起し、学んだこと・調べたことを「伝えたい」、他者や地域のために「役に立ちたい」「活動してみたい」といった動きを広げていくことができた。</p> <p>【課題】 ●中高生や大学生など、若い世代の参加を促し、様々な見方や考え方に触れる機会を広げていく必要がある。 ●今後は実行委員会を立ち上げるなど、運営主体を行政主導から市民主導へと移していくことにより、「市民が自発的に学ぶ」という目指す生涯学習の姿へと近づけていく必要がある。</p> |
| <p>特記事項</p> | <p>◇上記アクションプランのほか、かわら美術館や図書館といった生涯学習施設や、生涯学習事業に取り組む市民団体等によって、市民が講師やサポーターとなり、子どもと大人が互いに学び合う機会や様々な体験機会が数多く、かつ、幅広く企画・実施されている。 ◇総合計画「後期基本計画」の策定と並行して、「生涯学習基本計画」（後期）の策定も行う。「こんなことに取り組みます！」は成果・課題等を踏まえて、全般的に再構築を検討したい。</p> |

| 2. 「こんなことに取り組みます！」の実施内容 | | | |
|-------------------------|--|----------|----------------------|
| こんなことに取り組みます！ | (2)地域ぐるみで未来に羽ばたく人材を育て、まちづくりの活力を高めます。 | | |
| アクションプラン 事業名 | H26 未来にはばたく人材育成事業 H27 こども・若者成長応援事業 H28・29 タカハマ！まるごと宝箱事業 H29 市誌編さん事業 | 担当部・グループ | こども未来部 文化スポーツグループ |
| 実施内容 | 何を・どのように・どうした(どうする) ※箇条書きで記載する | | いつ(年月) |
| 平成26年度 | ①毎週事務局会議に参加し、たかはま夢・未来塾の課題解決など運営強化に注力した。ロボットクラブに属する2人が世界大会出場を決めた。ディベート甲子園では、全国3位に入賞した。 | | H26.4～ H27.3 |
| | ②中高生を含む市民スタッフと市民映画「タカハマ物語」第2弾作戦会議を開催した。「タカハマ物語2」シナリオ・撮影・演技ワークショップの開催、出演者オーディション、製作発表会など、製作に向けた準備を進めた。(H27.3.21 クランクイン) また、市民スタッフによる「タカハマ物語2」ラジオ放送や公式ホームページ、フェイスブックなど、様々な方法により情報発信した。 | | H26.7～ H27.3 |
| 平成27年度 | ①中高生スタッフを中心に、市内各所で「タカハマ物語2」の撮影を行った。特に「鬼コン Vol.5」では、多くの方にエキストラとして映画撮影に参加していただいた。 | | H27.5～11 |
| | ②鬼みちまつり、大家族たかはま会議、市民駅伝、シティマラソンなどに参加し、「タカハマ物語2」製作活動を紹介するとともにイベントを盛り上げた。 | | H27.10～ H28.1 |
| | ③中高生スタッフや市民スタッフとともに「タカハマ物語2 心のツバサ」上映会を開催した。 | | H28.2 |
| 平成28年度 | 【タカハマ！まるごと宝箱事業】 P3-5 の①②④に同じ | | |
| 平成29年度 (予定) | 【タカハマ！まるごと宝箱事業】 P3-5 の①～⑤に同じ | | |
| | 【市誌編さん事業】 P3-5 の④に同じ | | |

| | |
|---------------------------------|--|
| <p>「目標が達成された姿」の実現に向けての成果・課題</p> | <p>【成果】</p> <p>○未来塾では、子どもたちが各大会等で活躍しているほか、かつての塾生が高校生や社会人になり、夢・目標としていた職業に就いたり、未来塾講座のサポーターとして活躍するなど、学んだ成果を今の子どもたちのために活かすといった動きが見られるようになってきた。</p> <p>○市民映画制作では、「制作会社の役割もみんなでこなす」をモットーに、第1弾で関わった子どもたちが教え手に回るなど、中高生スタッフが主体的に運営を行い、年齢を超えた人と人とのつながり、自ら考え行動できる子ども・若者の育成、住んでいるまちのために何かしたいといった想いの醸成や行動につなげることができた。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子どもたちの「やりたい」「こうしたい」を応援する大人を、引き続き増やしていく必要がある。 ●子ども・若者たちが学んだり体験したことを、次の世代や地域など、様々な形で還元していく動きを、今後も広げていくことが大切である。 |
| <p>特記事項</p> | <p>◇上記アクションプランのほか、かわら美術館や図書館といった生涯学習施設や、生涯学習事業に取り組む市民団体等によって、市民が講師やサポーターとなり、子どもと大人が互いに学び合う機会や様々な体験機会が数多く、かつ、幅広く企画・実施されている。</p> <p>◇総合計画「後期基本計画」の策定と並行して、「生涯学習基本計画」（後期）の策定も行う。「こんなことに取り組みます！」は成果・課題等を踏まえて、全般的に再構築を検討したい。</p> |

| 2. 「こんなことに取り組みます！」の実施内容 | | | |
|------------------------------------|--|----------|----------------------|
| こんなことに取り組みます！ | (3)地域の良さ(歴史、文化、伝統など)を学び、地域の魅力の掘り起こし・情報発信を進めます。 | | |
| アクションプラン 事業名 | H26 学びによるつながり創出事業 H27 タカハマ!まるごと宝箱事業 H28 タカハマ!まるごと宝箱事業 市誌編さん事業 H29 タカハマ!まるごと宝箱事業 市誌編さん事業 | 担当部・グループ | こども未来部 文化スポーツグループ |
| 実施内容 | 何を・どのように・どうした(どうする) ※箇条書きで記載する | | いつ(年月) |
| 平成26年度 | 【学びによるつながり創出事業】 P3-5の①～③に同じ | | |
| 平成27年度 | 【タカハマ!まるごと宝箱事業】 P3-5の①②に同じ | | |
| | 【市誌編さん事業】 ①市誌編さんに向けての準備を行った。(他自治体の事例調査など) | | H27.10 ～H28.3 |
| 平成28年度 | 【タカハマ!まるごと宝箱事業】 P3-5の①②④に同じ | | |
| | 【市誌編さん事業】 | | |
| | ①編さん基本方針(案)を作成した。 | | H28.5 |
| | ②市誌編さんを進めている他市への聞き取り調査を行った。 | | H28.8～10 |
| | ③市誌編さん委員会を開催し、編さん基本方針や編さん体制などの検討を行った。 | | H28.11・ H29.3 |
| 平成29年度 (予定) | 【タカハマ!まるごと宝箱事業】 P3-5の①～④に同じ | | |
| | 【市誌編さん事業】 | | |
| | ①編集委員会を立ち上げ、専門部会ごとに本格的に資料調査を開始する。 | | H29.6 |
| | ②編集委員会・部会長会議を定期的に行い、各部会の調査状況等について情報を共有し、編集作業の進捗管理を行う。 | | H30.3 |
| | ③編さん委員会を開催し、編さんの方向性をチェックするとともに、市民目線の意見を取り入れながら活用法等を考える。 | | H30.3 |
| | ④子ども・若者(例:きずな実行委員会、名古屋市立大学)と連携して、まちのあゆみ取材・記録し、動画などで発信する。 | | H29.4 ～H30.3 |
| ⑤中間報告会の開催や、広報やHPなどで、編さんの進捗状況を発信する。 | | H30.3 | |

| | |
|---------------------------------|--|
| <p>「目標が達成された姿」の実現に向けての成果・課題</p> | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「タカハマ！まるごと宝箱」事業などを通して、高浜市の魅力・自慢を掘り起こし、保存・伝承していくことが重要であるという意識を高めることができた。 ○約40年ぶりとなる市誌編さんに着手し、「市民とともにつむぐ・つなぐ」を基本方針とし、編さん項目（案）の検討、編さん体制を整えることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●前回の市誌発行（昭和51年）以降、市の状況が大きく変化する中で、まちのあゆみを知ることができる貴重な資料の保存や、人々の中にある記憶を記録にとどめる作業は、必ずしも十分とはいえない状況にある。市民に資料の掘り起こし、情報提供、調査、原稿執筆、語りなど様々な形で協力を呼びかけ、市制施行後約50年間のあゆみを中心に、市民の記憶を記録にする作業を進める必要がある。 ●市民が様々な魅力・自慢を知り、その過程で様々な人が関わり合うことで、「もっと知りたい」といった好奇心や、「住んでいるまちをより良いものにしたい」といったまちづくりの原動力が生まれてくる。市民の共有財産である資料等の散逸・消失を防ぎ、先人たちのあゆみやまちへの想いを知り、市の財産として将来へと伝え、活かしていくことが大切である。 ●本市では人口が緩やかに増加しているが、大半が社会増（転入）である。まちづくりの原動力となるまちへの愛着・誇りを高めていくためには、子どもが大人へと成長する過程で想いを育む、子どもが大人に対してまちの魅力等を伝えていくといった効果を狙う必要があり、子どもへのアプローチが今まで以上に重要となってくる。 |
| <p>特記事項</p> | <ul style="list-style-type: none"> ◇上記アクションプランのほか、まちづくり協議会や伝統文化保存団体などの市民・市民団体が主体となって、デジタルアーカイブスや伝承館整備など、まちの魅力・自慢を掘り起こし、発信する取組みが実施されている。 ◇総合計画「後期基本計画」の策定と並行して、「生涯学習基本計画」（後期）の策定も行う。「こんなことに取り組みます！」は成果・課題等を踏まえて、全般的に再構築を検討したい。 |

| 2. 「こんなことに取り組みます！」の実施内容 | | | |
|--|---|-----------------|----------------------|
| こんなことに取り組みます！ | (4)誰もが楽しめるスポーツ・レクリエーションの機会をつくり、市民交流の場を充実します。 | | |
| アクションプラン 事業名 | H26・27 高浜緑地グラウンド整備事業 生涯スポーツ推進事業 H28 (仮称)高浜緑地整備事業 生涯スポーツ推進事業 H29 高浜芳川緑地整備事業 生涯スポーツ推進事業 | 担当部・グループ | こども未来部 文化スポーツグループ |
| 実施内容 | 何を・どのように・どうした(どうする) ※箇条書きで記載する | | いつ(年月) |
| 平成26年度 | ①たかはまスポーツクラブ・高浜市体育協会・高浜ボートクラブ・高浜市スポーツ推進委員会と協働での事業推進を行った。 | | H26.4～ H27.3 |
| | ②(仮称)高浜緑地上部利用について、愛知県港務所と定期的に打合せを実施した。また、市民と検討会を立ち上げ、ワークショップを開催した。 | | H26.4～ H27.3 |
| 平成27年度 | ①(仮称)高浜緑地の整備に向け、スポーツ団体や渡し場かもめ会等から利用に対する意見を聴き、詳細設計を完成させた。 | | H27.4～ H28.3 |
| | ②たかはまスポーツクラブ・体育協会・ボートクラブ・スポーツ推進委員と協働で事業を推進した。(ラジオ体操指導者講習会、漕艇センター利用者講習会、高浜市民レガッタ、愛知駅伝選考会、市民体育大会、高浜市民駅伝、高浜シティマラソン など) | | H27.4～ H28.3 |
| 平成28年度 | 【(仮称)高浜緑地】 | | |
| | ①衣浦港務所と、県及び市実施工事の内容やスケジュールについて調整を行った。 | | H28.4 ～H29.3 |
| | ②上部利用についての検討会議を、関係団体を交えて行った。 | | H28.5 ～H29.3 |
| | ③平成27年度に開催した若者向けワークショップで出た意見・提案を上部利用検討会議メンバーで協議し、参加者へ協議結果をお返した。 | | H28.5 |
| | ④供用開始に向け、市実施工事に着手した。 | | H28.12 |
| | ⑤名称を「高浜芳川緑地」とし、供用開始に必要な各種規程について整備した。(条例・規則の改正) | | H29.3 |
| | 【スポーツ推進・スポーツ施設】 | | |
| | ①スポーツクラブ・体育協会・ボートクラブ・スポーツ推進委員会と協働でスポーツ事業を実施した。【ラジオ体操指導者講習会、漕艇センター利用者講習会、高浜市民レガッタ、愛知駅伝選考会、市民駅伝など】 | | H28.4～ H29.3 |
| | ②全国大会参加奨励金の支給など、スポーツ大会の参加を促進した。 | | H28.4～ H29.3 |
| | ③スポーツ・レクリエーション大会(卓球競技)の開催、スポーツ推進委員によるバランスボール教室、ノルディックウォーク講習会等、様々な年代・性別の方も楽しめるスポーツイベントを開催した。 | | H28.4～ H29.3 |
| ④機能移転を予定している体育施設(体育センター、南テニスコート、青少年ホーム)について、利用状況等の分析を行うとともに、利用者やテニス協会等と意見交換を行った。 | | H28.4～ H29.3 | |

| | | |
|-----------------------------------|--|--|
| 平成29年度 (予定) | 【高浜芳川緑地】 | |
| | ①今後の整備工事の具体的な実施計画について衣浦港務所との打合せを行う。 | 随時 |
| | ②運用に向けて、管理運営団体や中心となる利用者団体と協議を行う。 | H29.6 |
| | ③県工事と調整しながら、供用開始に向けた付帯設備工事を進める。 | H29.6 |
| | ④多目的広場の一部について、利用を開始する。スポーツ団体等と協力してオープニングイベントを開催する。 | H29.7 |
| | ⑤高浜芳川緑地の整備進捗等について、市民へ情報を発信する。 | 随時 |
| | 【スポーツ推進・スポーツ施設】 | |
| | ①体育施設の危険箇所等の修繕・改修を実施する。(五反田第2グラウンド防球ネット張替等) | H29.9 |
| | ②TSC と協働で、体育施設機能の確保、スポーツに親しむ場の確保を図る。 | H30.3 |
| | ③体育施設の今後のあり方について、利用者等に対して HP、広報、説明会等により周知する。 | H30.3 |
| ④スポーツ推進委員会を中心に、ニュースポーツイベント等を展開する。 | H30.3 | |
| 「目標が達成された姿」の実現 に向けての 成果・課題 | <p>【成果】</p> <p>○健康づくりや生きがいつくりの観点から、各種スポーツイベントへの参加者数が、全体的に増加傾向となっている。指標「日常的に運動やスポーツを行っている人の割合」(目標 11) も上昇傾向にある(策定時 34.8%⇒H27 実績値 40.6%)。</p> <p>○全国大会や世界大会へ出場し、好成績を収める子どもも多く、子どもたちの頑張りや活躍は他の子どもたちの目標や憧れ、市民やまちにとっての自慢・誇りにつながっている。</p> <p>○早期完成が望まれていた「高浜芳川緑地」の多目的広場(グラウンド部分)を、平成 29 年 7 月に供用開始できることとなった。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「ボッチャ」など、年代等を問わず、誰もが気軽に楽しめるスポーツ・レクリエーションの普及、機会充実にさらに努めていく必要がある。 ●「公共施設総合管理計画」に基づき、既存のスポーツ施設である体育センターや青少年ホーム(軽運動室)などは、機能の集約化・複合化により、床面積としては減少の方向にある。スポーツ・レクリエーションは「いつでも・どこでも・だれでも」が基本的な考え方であり、スポーツ施設以外でも楽しめるスポーツ・レクリエーションの機会を、市民やスポーツ団体などとともに検討・創出していく必要がある。 | |
| | 特記事項 | <p>◇総合計画「後期基本計画」の策定と並行して、「生涯学習基本計画」(後期)の策定も行う。「こんなことに取り組みます！」は成果・課題等を踏まえて、全般的に再構築を検討したい。</p> |

Ⅲ. 今後の取り組みの方向性

1. 今後予想される社会変化や動向、新たな課題

◇近年のオリンピックは「スポーツと文化の祭典」と言われている。2020年の「東京オリンピック・パラリンピック」開催に向け、国を挙げてのスポーツ振興・文化振興の動きが活発化している。また、こうした動きを一過性のものにせず、持続的なものにしていこうという機運が高まっている。

2. 今後、特に力を入れる取り組み（優先度の高いもの3つ）

（1）まちのチカラの源である「まちへの愛着・誇り」を高める

◇「市誌編さん」事業や「タカハマ！まるごと宝箱」事業などを通じて、市民が様々な魅力・自慢を知り、様々な人（年代・市内外）が関わり合うことで、「もっと知りたい」といった好奇心や「調べてみよう」といった意欲を喚起し、学んだこと・調べたことを「伝えたい」、「誰かの役に立ちたい」「住んでいるまちをより良いものにしたい」といった動きを広げていく。

◇市民の共有財産である資料等の散逸・消失を防ぎ、先人たちのあゆみやまちへの思いなどを将来へと伝え、活かしていく。

（2）子ども・若者の「やりたい」「こうしたい」を応援する輪を広げる

◇「(仮称) 子ども・若者支援地域協議会」を立ち上げ、子どもたちが感じている悩み・課題などをくみ取り、子どもたちの「やりたい」「こうしたい」を応援する輪を広げ、生きる力や挑戦する力を育てていく。

◇各種事業を通して、子ども・若者たちが学んだり体験したことを、次の世代や地域など、様々な形で還元していく動きを広げていく。

（3）市民とともに育むスポーツ・文化活動

◇市民やスポーツ団体等と連携しながら、「ポッチャ」など「いつでも・だれでも・どこでも」気軽に楽しめるスポーツ・レクリエーションの普及、機会充実に取り組む。

◇かわら美術館を様々な人が集まり、交わり、好奇心や創造意欲を高める場、高浜市の魅力・自慢を受発信する場とし、市民・市民団体とともに文化・芸術、生涯学習、産業・観光などの様々な能動的活動を創出していく。

◇生涯学習施設等の運営や事業の実施にあたっては、場所を貸す、図書を貸す、展覧会を開催するといった一方通行型ではなく、場や機会を通して人と人が対話・交流しあい、人とまなびがつながる工夫をする。

Ⅳ. 施策(目標)構成の検証

◇目標3は生涯学習分野に関するものであり、現行の施策(目標)構成で問題ない。

◇公共施設のあり方検討について、現在は目標2「財政運営」に記載がある。公共施設のうち生涯学習・スポーツ施設が占めるウェイトは大きく、検討・再編も具体化しつつあるが、目標3「生涯学習」に盛り込むのはなじまないと思われる。現行のとおり目標2「財政運営」で取り扱うのか、あるいは、別の施策構成を考えるのか、検討を要する。